

研究対象者等への情報公開文書(オプトアウト用文書)

目的

パーキンソン病 (PD) は、運動の開始を担う神経伝達物質(ドーパミン)が不足し動作緩慢、固縮、振戦、姿勢反射障害、すくみ足や突進歩行といった特異な障害特性をもつ疾患であり、組織学的には α -シヌクレインの凝集により形成されたレビー小体が脳に蓄積します。アディポネクチン (APN) は脂肪の燃焼、糖取り込み促進作用、抗炎症など多彩な作用を持つ分泌蛋白あり、その分泌異常にはメタボリック症候群が知られています。PD もまた生活習慣病の側面を有することを示唆する証拠が蓄積されております。最近、ヒト脳における APN の免疫染色で APN が α -シヌクレイノパチーに由来するレビー小体に局在し、 α -シヌクレインを発現する神経細胞において α -シヌクレインの凝集が組換え APN で抑制されることが報告されました。PD と異なる脳病理を示し、PD との鑑別診断に難渋する進行性核上麻痺や多系統萎縮症患者の APN 値を比較することにより、血清 APN が PD の診断に有用であると仮説を立て検証いたします。本研究は奈良県立医科大学の医の倫理委員会の承認及び学長の許可がある研究であります。

方法

奈良県立医科大学神経内科に受診あるいは入院した時に、通常診療範囲内で血液を採取し凍結保存しておいた検体を使用し、アディポネクチン値を測定いたします。また、アディポネクチン値は脂肪の燃焼、糖取り込み促進作用があり、これらの因子のアディポネクチン値への影響を考慮するため、当時のカルテから総コレステロールと中性脂肪、HDL-C、LDL-C、血糖値を分析のため利用させていただきます。また、これらの項目が測定されていなければ、同じ凍結保存検体で測定させていただきます。測定日までの通常診療範囲内で得た臨床情報 [Hoen-Yahr ステージ、BMI 測定のため身長と体重、UPDRS スコア、1日ドーパミン換算量、罹患期間] も、当時のカルテから使用させていただきます。対象となる疾患はパーキンソン病と進行性核上麻痺、多系統萎縮症であり、研究対象となる期間は西暦 1998 年 1 月 1 日から西暦 2019 年 3 月 31 日です。論文発表等の研究成果の開示も本ホームページで開示いたします。

個人情報と取り扱い

本研究で得られた情報は研究終了から 5 年もしくは論文等の発表から 3 年まで保管し、保管期間が終われば、個人情報や匿名化番号、電子記憶媒体 (USB など) に保存した情報は削除し、紙で保存している研究に関する情報はシュレッダー

処理いたします。研究終了後、結果の公表は参加者個人が特定できない形で国内外の関連学会、学術雑誌に報告する予定であります。ただし、同意を取り消した時に既に研究結果が論文などで公表されている場合のように、研究結果からあなたをはずすことができない場合もあります。

研究への参加、同意の撤回は自由です

この文章をみて、この研究への参加をお断りになる場合は研究代表者に連絡下さい、速やかに該当する対象者の測定結果や前述の情報を削除いたします。

問い合わせ先

この研究について何か分からないことや心配なことがありましたら、いつでも担当者にご相談ください。研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手したい時にもご相談ください。連絡先は以下のとおりです。

担当者氏名：形岡博史（奈良県立医科大学 神経内科学講座）

連絡先：TEL：0744-29-8860（奈良県立医科大学 神経内科学講座）

上記の研究成果は、Neurological Sciences 電子版に掲載されました。

御協力ありがとうございました。

<論文情報>

掲載雑誌：Neurological Sciences

論文タイトル：Serum adiponectin levels between patients with Parkinson's disease and those with PSP.

著者：Hiroshi Kataoka（形岡博史）, Kazuma Sugie（杉江和馬）

論文公開日：2020年1月2日

DOI：doi: 10.1007/s10072-019-04216-4